

## 栗真町屋町龍踊りクラウドファンディングについて

### 学生と地域住民で伝統の祭り復活への挑戦

- 大学の周辺の栗真町屋町の龍踊りを学生と地域住民共同で開催
- 栗真町屋町とはかつてから複数の団体がかかわってきた。
- 資金面の問題やより多くの方に祭りを知ってもらうために、クラファン挑戦
- 学生が地域に貢献しながら、多くの事を学んでいる。



<本件に関するお問合せ>  
三重大学医学部5年 横谷真悟  
TEL: 080-6930-7709  
E-mail: [322108@m.mie-u.ac.jp](mailto:322108@m.mie-u.ac.jp)

## 【背景・経緯】

三重大学医学部総合診療部、三重大学応援団、三重大学ECGはそれぞれ異なる経緯で三重大学周辺の地域である栗真町屋町の住民と交流してきた。特に、栗真町屋町の一大イベントである、「龍踊り」では祭りの山車の担ぎ手として、地域を盛り上げてきた。昨年、主催団体の高齢化などの事情から祭りの終了の発表があった。地域の伝統芸能を後世に伝えるために、学生と地域住民が共同で運営して、祭りの継続をこころみることとなった。

## 【研究内容・成果】

学生が運営に入るうえで、二つのことを目指した。一つは、学生が入ることで、祭りに関わる地域住民の負担を軽減すること。もう一つは、新しい試みにより、より多くの人に祭りを楽しんでもらうこと。

具体的な負担としては、山車の修復や当日の準備、そして資金集めである。1カ月にわたる準備に学生が関わることで、一人当たりの負担が減少した。

資金集めのためには、学生主導でクラウドファンディングを実施することとなった。町内のみならず、町を出た人々にも祭りに関わって頂くことができたり、これを機に祭りを知り足を運んでいただく方が増えることを期待している。さらに、学生が祭りのTシャツをデザインしたり、キッチンカーを誘致するなど、新しい取り組みが行われた。

その結果として、地域住民からは今まで負担に思っていた祭りだが、今年は心から楽しみにしているという声が聞かれた。また、地域の繋がりを残す機会になっている祭りが残って本当によかったという声も聞かれた。また、学生としても例年以上に地域の方と関わり、人と人の付き合いをする機会となった。



# 「巨大龍踊り」について

- 30年前に地域の活性化団体「町屋百人衆」が始めた。
- 55mの巨大な龍を地域住民で担ぎ、練り歩く。
- 学生がかつてから関わってきており、卒業後も祭りのたびにOBやOGが全国各地から集う祭り
- 地域住民と三重大学の接点となっていた祭り

# 各団体と地域のかかわりについて

## 「医学部総合診療部」

栗真町屋町を舞台に「町屋プロジェクト」展開中。

学生が地域の方と関わり、地域の方の暮らしや人生に触れることで、地域を丸ごと診る視点を持つことを目指しています。

栗真町屋町を健康にするべく、病院から飛び出して、月二回の健康イベントや祭りなどの地域行事の支援を行っています。

## 「三重大学応援団」

活動目標の一つに「地域社会の応援」を掲げ、運動部や地域の応援や演舞を行っています。

栗真町屋町とは海岸清掃の応援や龍踊りでの担ぎ手や演舞を行って、祭りを盛り上げています。

## 「三重大学ECG」

環境保全や持続可能な社会の実現をめざす学生主体の組織です。

キャンパスの内外で様々な学生環境活動を推進しています。

その一環として、栗真町屋町の海岸清掃を30年近く住民と共同して実施しています。

# クラウドファンディングについて

2026年度から「地域住民と学生」が共同して実施することに。

背景には少子高齢化による地域住民の負担の増加があった。

準備や費用の負担が主なものだった。

より多くの方に祭りを知ってもらうため、町を離れた方にも支援いただくために、今年クラウドファンディングに挑戦している。



# この活動の価値について

- 地域コミュニティの維持に学生が貢献すること。

少子高齢化の続く地域の祭りを大学生が地域住民と共同して開催する中で、学生は社会問題の実情を地域の方の生の声を通じて、学び、実感することになります。その結果、社会課題への興味を持ち、主体的に解決に取り組むようになったり、将来の職業や働く場所の選択に大きな影響をもたらすと考えています。また、4年間過ごす三重大学周辺の地域への愛着を感じ、将来にわたりこの地域にかかわることが期待され、この地域の関係人口を増やし、盛り上げていくことにもつながると感じています。